

村山龍平と香雪美術館

MURAYAMA RYOUHEI & KOSETSU MUSEUM OF ART

香雪美術館の「香雪」は、所蔵品の多くを収集した村山龍平の号です。嘉永3年(1850)、現在の三重県に生まれた龍平は、28歳で朝日新聞を創刊し、日本を代表する新聞に育てました。美術にも深い関心を寄せ、岡倉天心らの主宰する美術雑誌「國華」の経営も引き受けています。開館後、多くの価値ある美術品が海外へと流出し始めると、それを食い止めたいという思いから美術品の収集に力を注ぎました。没後、学術的・美術的に価値ある収集品に対して美術館設立の声が上がり、昭和47年(1972)に財団法人香雪美術館を設立。翌48年(1973)11月、神戸・御影に香雪美術館が開館しました。美術品はもとより、国の重要文化財に指定された旧村山家住宅の保存・調査を進めながら、茶会など文化的体験の機会を提供する公益活動に取り組んできました。今後は、新たに誕生する「中之島香雪美術館」とともに、かけがえのない文化財を未来に引き継ぐ事業をいっそう進めていきます。



香雪美術館(神戸市東灘区御影)

村山龍平

「國華」創刊号

香雪美術館

重要文化財19点、重要美術品22点を含む多岐にわたる所蔵品

所蔵品は、重要文化財19点、重要美術品22点を筆頭に、仏教美術、書跡、近世絵画から茶道具、武具まで、幅広いジャンルにわたります。神戸・御影の香雪美術館では、テーマを決めて館蔵美術品を展示する「コレクション展」と、日本美術の様々な作家に焦点を当てた「企画展」を開いています。また、展示に関連するテーマの講演会と茶会を合わせた「梅園会」を年に数回開催し、美術品に対する理解を深める機会を設けています。



重要文化財
レナント戦闘図屏風



重要美術品
鳥文斎栄之 美人夏姿図



重要美術品
長次郎 黒染茶碗 銘「古狐」



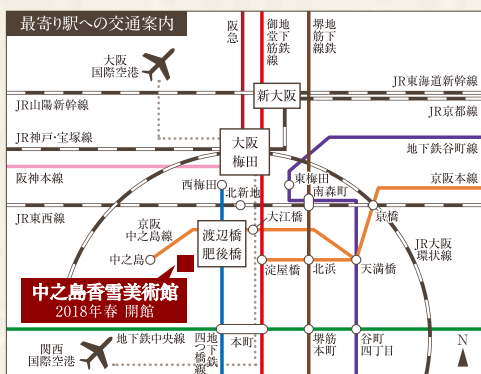
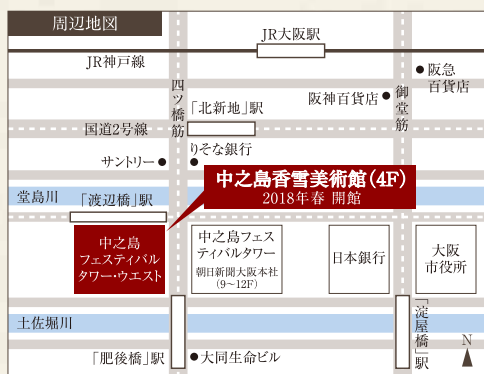
重要美術品
藤原伊房 藍紙万葉集切

美術館までのアクセス

中之島香雪美術館

- 地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅、京阪中之島線「渡辺橋」駅と直結
- JR「大阪」駅桜橋口より徒歩11分
- 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅より徒歩6分
- JR東西線「北新地」駅より徒歩8分

<http://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>

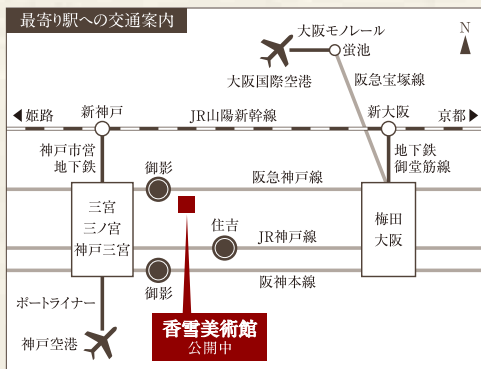
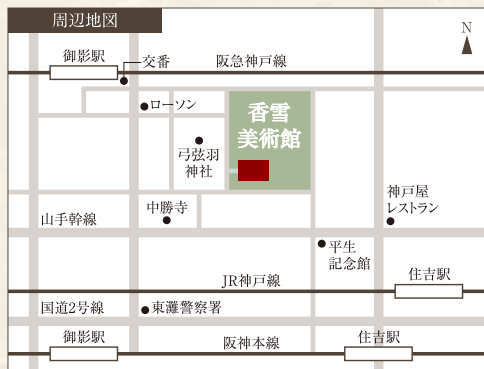


香雪美術館

- 阪急神戸線「御影」駅より東南へ徒歩5分
- JR神戸線「住吉」駅より西北へ徒歩15分
- 阪神本線「御影」駅より市バス19系統で「阪急御影」下車、東南へ徒歩5分

※美術館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用下さい。

<http://www.kosetsu-museum.or.jp>



ACCESS

2018.
Spring
Open

kosetsu

茶



中之島フェスティバルタワー・ウエスト4F
来春、開館。

公益財団法人
香雪美術館
Kosetsu Museum of Art

はじめてまして
中之島香雪
です。

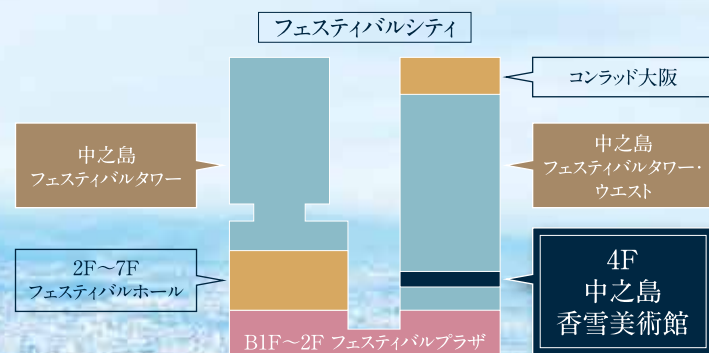
中之島香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

2018年春、「中之島香雪美術館」が 「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」に 誕生します。

香雪美術館が開館45周年の節目を迎える2018年、大阪市北区中之島に建つ超高層複合ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」に、2つ目の美術館として「中之島香雪美術館」を開館させます。中之島は、文化施設が集積し、交通アクセスにも恵まれた大阪No.1のビジネス・文化ゾーンです。ここに新しい香雪美術館をオープンすることで、朝日新聞の創業者、村山龍平が収集した日本と東洋の古い時代の美術コレクションをより多くの人に届けます。

経済と文化を未来へと繋いでいく「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」

「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」はテナントオフィス階の最上層に、ラグジュアリーホテルの「コンラッド大阪」がオープンしました。B1～2階にはレストランやカフェ、セレクトショップもあります。



中之島 香雪美術館

ロビー・エントランス

CONCEPT

新たな「市中の山居」の創造

ビジネス街の超高層ビルの中に、静謐で格調ある空間をつくり、日本の美術を堪能できる美術館です。
茶の湯の世界でいう「市中の山居」の創造は、街の中に居ながらにして草庵を営み、山中のような静寂な境地を味わうこと。
中之島香雪美術館のめざすテーマです。

喧噪を忘れ
静かに美術品と
向き合える美術館

日本の文化・芸術を守り
後世に伝える美術館

幅広い世代の
人々が集う
都市型美術館

ミュージアムショップの設置
展示テーマに即した講演やセミナー

伝統と革新が
融合した新たな
展示スペースの創設

現代建築と伝統美が融合した空間に
最新鋭の空調や展示ケース、LED照明を設置

魅力ある企画展や
多彩な展示に
対応する空間

様々な企画展に対応する可動展示壁など
多彩な機能をもつ美術館

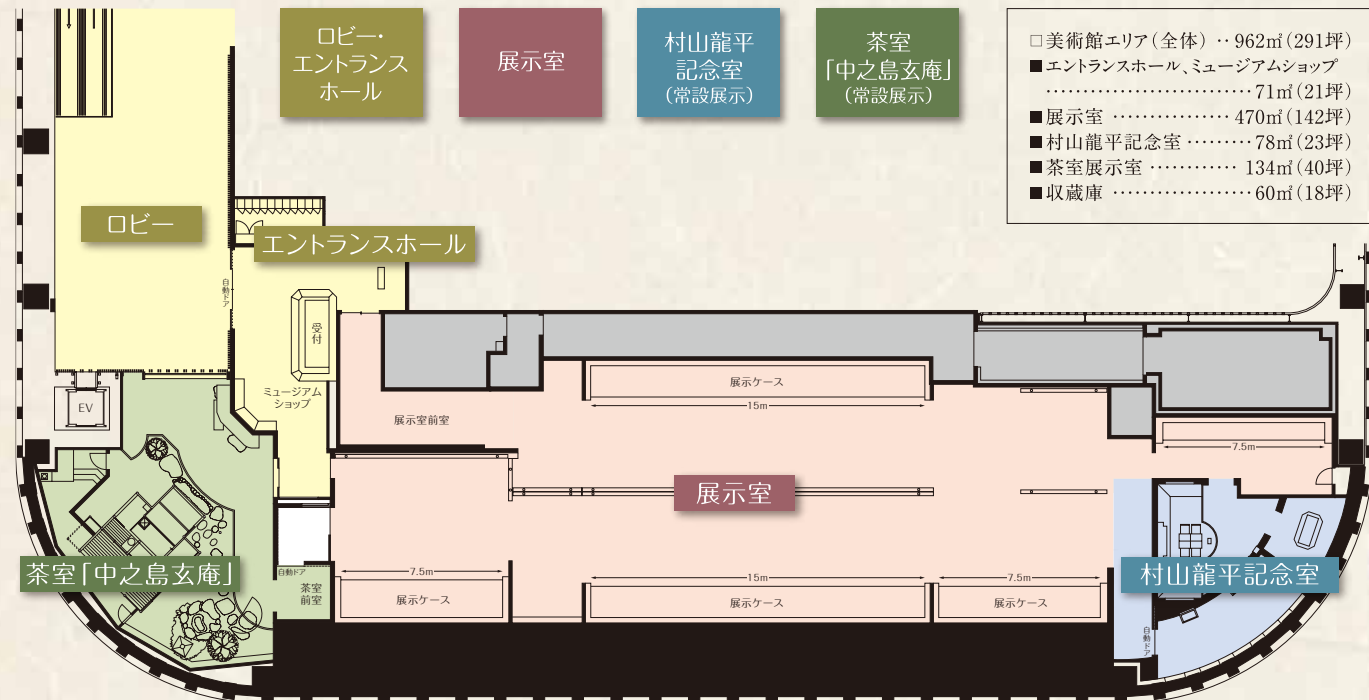
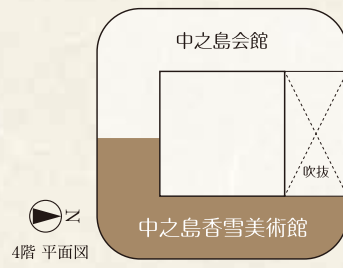
国指定
重要文化財である
「玄庵」を再現した茶室

旧村山家住宅に現存する茶室を
伝統建築技法で再現

中之島香雪美術館について

ABOUT THE MUSEUM

「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」の4階に誕生する総面積約962㎡の「中之島香雪美術館」。「市中の山居」の創造をコンセプトとするこの美術館は、都心の近代的なビルの中であって、静謐で格調ある空気に包まれています。



□美術館エリア (全体)	962㎡ (291坪)
■エントランスホール、ミュージアムショップ	71㎡ (21坪)
■展示室	470㎡ (142坪)
■村山龍平記念室	78㎡ (23坪)
■茶室展示室	134㎡ (40坪)
■収蔵庫	60㎡ (18坪)

ロビー・エントランス

- 日本の伝統的な様式「切子格子」をモチーフにした木目のデザインと土壁が、現代建築と和の世界観を融合した独自の空間を生み出します。
- エントランス横に設けた大型ガラスの格子窓から垣間見えるのは、茶室「玄庵」の再現展示。美術館を訪れる方の期待を高める演出です。

エントランスホール・ミュージアムショップ

- 「中之島香雪美術館」の顔となるエントランスは天井高約5m。館内で最も開放的な空間です。
- 床面は玄昌石、カウンターや壁面には大谷石を用い、重厚で落ち着いた内装です。
- ミュージアムショップでは、香雪美術館オリジナルのグッズなどを販売します。

展示室

EXHIBITION ROOM

展示室は「展示性」「保存性」「安全性」「操作性・耐久性」を重視した、優れた展示空間を実現しています。

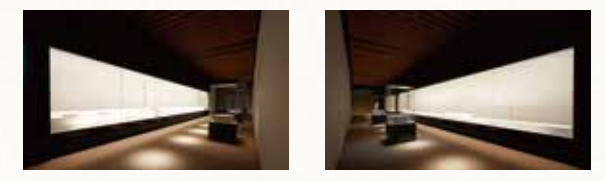


展示環境

- 展示品により集中できる環境をつくるため、室内高を約4.5mとし、天井には、美術館全体のデザインモチーフとなる格子形状のルーバーを配置しています。
- 展示品に悪影響を及ぼす恐れのある物質を排除することで、展示品にとってストレスのない環境を確保しています。
- 美術館エリアには、独立した空調設備を設置。展示品に最適な温湿度環境を確保しています。

展示ケース

- すべての展示ケースは高气密性能の「エアタイトケース」で、温度・湿度の変化から展示品がダメージを受けるのを防ぎます。また、外部からメンテナンスできる調湿剤BOXを取り付けています。
- 展示ケースのガラスは、透明性の高い国内最高水準の超高透過ガラスに低反射加工を採用しています。
- 前面のガラスが開閉し、正面からの作品展示が可能となる「パラレルスライド機構」を採用しています。



可動壁

- 展示室内には可動式展示パネル壁を導入しています。様々な企画展示に対応できるようにしています。

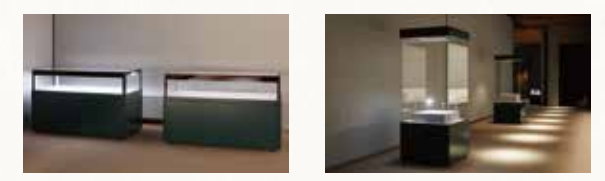


防災

- 中之島フェスティバルタワー・ウエストは、Sグレードのスーパー制振を採用しています。
- 展示室や収蔵庫は防火区画に設定。消火設備としてハロゲン化物消火設備を導入しています。
- 展示室内のすべての素材に不燃化を施しています。

展示照明

- 【美術館】
- 館内はすべてLED照明を導入しており、調光が可能です。
 - 天井部には照明ダクトを複数設置し、個別に調光できるシステムを採用しています。
- 【展示ケース】
- 展示ケース内のすべての照明設備にも、紫外線や熱を発生しないLEDを採用しています。
 - 照明機材は熱切ガラスで展示ケースと遮断し、外部から照明機材を調整することができ、演色性能Ra92以上、各ケースを個別に調光できるシステムを採用しています。



常設展示のご案内

PERMANENT EXHIBITION

茶室「中之島玄庵」

「中之島香雪美術館」の常設展示施設として、国指定重要文化財「旧村山家住宅」に建つ茶室「玄庵」を原寸大で再現しました。「茶室」のみならず「露地」空間全体を再現して常設展示するという手法は、今回の「中之島香雪美術館」が初めてです。設計・監修は京都伝統建築技術協会の中村昌生理事長が担当し、施工は元禄元年（1688）創業の安井杵工務店が伝統工法で仕上げました。露地は中根庭園研究所が監修しました。伝統的な匠の技と、映像・照明による空間演出など現代のテクノロジーとが融合しました。



茶室「中之島玄庵」

展示について

[公開展示]

- 一部の壁を脱着可能な構造にし、茶室内部を鑑賞しやすくする工夫を凝らしています。また、「点前」を実際に鑑賞できる「イベント茶会」など、新しい展示手法も試みます。

[露地再現について]

- 藪内流の「露地」の特徴である腰掛待合、猿戸から内露地の段差のついた珍しい戸摺石や飛石を配置。延段や手水鉢、灯笼などを造形、下草や苔なども再現展示しています。

[映像・照明による演出]

- 演出照明を駆使した光による明暗が本来の茶室の陰影を生み、茶の湯の世界観を彩ります。また、壁面にはプロジェクターで最新デジタルCG映像を投影し、四季により変化する茶室の空間の演出を行います。



「玄庵」について

- 村山龍平は、大阪の財界人との交流を通じて次第に茶の湯の世界を楽しむようになり、藪内流の藪内節庵に就いて茶を学びました。
- 明治44年（1911）、藪内節庵の指導を受け、村山邸の和館の奥に建てられた「玄庵」は、藪内流家元の茶室である重要文化財「燕庵」の写し。これを写して建てることは、相伝を得た人だけが許される定めであり、村山邸に建てられたのは破格の扱いでした。
- 近代の優れた和風建築として村山龍平の趣味教養を偲ばせるとともに、高い建築技術を後世に伝える大切な文化資産です。



「村山龍平記念室」

村山龍平の生涯を貴重な展示品や大型年表、解説パネルなどにより紹介します。また、朝日新聞社の発祥の地である中之島の歴史を辿ります。



主な展示・紹介内容について

[朝日新聞社と村山龍平の足跡]

- 朝日新聞社の歴史や、中之島における社屋の変遷について、年表やパネル、映像で紹介。朝日新聞創刊号のパネルなどの資料も展示しています。
- 来館者自身が展示関連の情報を検索し、閲覧できる情報端末設備も設置しています。

[旧村山家住宅について]

- 村山龍平が移り住んだ神戸・御影が関西財界人の住まう屈指の高級住宅地として発展してきた歴史や、現存する国指定重要文化財「旧村山家住宅」を、パネルや全景ジオラマ模型、映像で紹介しています。
- 竹をモチーフに美しく装飾された洋館2階の居間を再現展示しています。

[村山龍平の美への想い]

- 岡倉天心たちが主宰した美術雑誌「國華」の経営を引き継ぐエピソードを、書簡や「國華」の関連資料とともに紹介しています。
- 多くの美術品の海外流出を食い止め、自ら美術品の収集に力を注いだ物語や、日本の美術への想いを映像で紹介しています。



村山龍平と朝日新聞社の足跡



旧村山家住宅について



美術雑誌「國華」について



旧村山家住宅 洋館 居間の再現



露地



玄庵内観